

クイック・スタート・ガイド

この資料は、DataPower Gateway 仮想エディションを初めて使用するときに役立ちます。

製品の概要

仮想アプライアンスを VMware にデプロイするために IBM® によって提供されるイメージは、自己完結型仮想マシン・イメージです。非実動エディションと開発者エディションは、テストおよび開発専用です。

1 ステップ 1: ソフトウェアへのアクセス



パッケージを IBM パスポート・アドバンテージからダウンロードします。以下のコンポーネントが含まれています。

- 仮想アプライアンスをデプロイするためのイメージ。
- リソース・キット。
- この PDF 文書。

2 ステップ 2: ハードウェアおよびシステム構成の評価



ハイパーバイザーに仮想アプライアンスをホストするには、構成済みの DataPower® サービスに十分なりソースをプロビジョンする必要があります。

仮想アプライアンスは、以下の VMware ハイパーバイザーでサポートされます。

- VMware Fusion
- VMware Player
- VMware vSphere ESXi
- VMware Workstation

仮想アプライアンスは、以下の IBM 管理対象クラウド・ソリューションによってホストされるハイパーバイザーでサポートされます。

- IBM PureApplication® System
- IBM SoftLayer

各仮想アプライアンスの最小のリソース割り振りは以下のとおりです。

- 2 つの仮想プロセッサ (vCPU)
- 4 GB の RAM
- 32 GB のディスク・スペース (シック・プロビジョンされている場合) または 258.6 MB (シン・プロビジョンされている場合)

3 ステップ 3: 仮想アプライアンスのデプロイ



仮想アプライアンスをデプロイするための適切な仮想イメージ・ファイルを使用します。

スタンドアロン・ハイパーバイザーにデプロイするために、IBM はエディションごとに 1 つの OVA ファイルを提供します。

- 実動エディション: xxx.prod.ova
- 非実動エディション: xxx.nonprod.ova
- 開発者エディション: xxx.dev.ova

VMware スタンドアロン・ハイパーバイザーにデプロイするには、次のようにします。

1. VMware 製品で、OVA イメージをデプロイして、ハイパーバイザー上に仮想アプライアンスを作成します。
2. 仮想アプライアンスの電源をオンにします。
3. VMware CLI を使用して、username: admin および password: admin を使用してアプライアンスにログインします。
4. プロンプトに従って、仮想アプライアンスを初期化します。

IBM PureApplication System にデプロイするには、次のようにします。

1. カタログに OVA イメージをインポートします。
2. デプロイメント・トポロジーの一部として、仮想アプライアンスを含む仮想システム・パターンを作成します。
3. 「デプロイ」をクリックして、仮想システム・パターンをデプロイします。「パターン・デプロイメント」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 仮想システム名を入力して、プロンプトに従って仮想アプライアンスを初期化します。
5. 仮想システム情報が「仮想システム・インスタンス」ウィンドウに表示されます。

4 ステップ 4: 始めに



仮想アプライアンスが VMware ハイパーバイザー上にある場合、以下の手順を実行します。

1. Web 管理サービスを初期化するとき定義した URL を使用して、WebGUI にアクセスします。初期化中、システム ID を定義します。
2. ご使用条件に同意します。

注: マルチリンガル OVA ファイルを完全にサポートしないハイパーバイザーは、仮想アプライアンスのデプロイ前に同意する必要がある空のご使用条件ダイアログを表示することがあります。WebGUI を開始すると、DataPower のライセンスが表示されます。

仮想アプライアンスが IBM PureApplication System によって管理される場合、https://ip_address:port から WebGUI にアクセスします。

- IP アドレスは IBM PureApplication System によって割り当てられます。仮想マシンの詳細を展開し、「ハードウェアおよびネットワーク」セクションを表示すると、IP アドレスが見つかります。IP アドレスはネットワーク・インターフェース 1 用になります。
- ポートの定義は、パターン・プロパティを編集する時、またはパターンをデプロイして事前定義プロパティを編集する時に行います。

5 ステップ 5: モジュールの管理



実動エディションの場合は、IBM Passport Advantage®でモジュールを購入します。モジュールを購入すると、アクティベーション・ツールとインストール手順を含むパッケージを受け取ります。

非実動エディションと開発者エディションの場合は、無効化ツールを使用して、不要なモジュールを無効にします。このツールは、IBM Fix Central から無償で入手することができます。

詳細情報



詳しくは、IBM Knowledge Center (<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9H2Y>) の IBM DataPower Gateways 資料を参照してください。